

科目名	歯科技工管理学(特講)			担当教員名	安部好美/衛藤有沙			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	実習	実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 7 関係法規:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。								
到達目標								
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)								
授業計画								
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 7 関係法規:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、法律の知識を修得する。 毎回、復習課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1			
合 計					15			
時間外学習について								
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。								
成績評価の方法及び評価割合について								
定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								
歯科臨床での経験から必要となる法的知識やコンプライアンス、医道倫理、歯科衛生行政、等の内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。								

科目名	解剖学(特講)		担当教員名	安部好美		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習
教科書 及び参考書	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学:医歯薬出版		○	実習		実技	<input type="checkbox"/>
	要点チェック歯科技工士国家試験対策 2 歯の解剖学:医歯薬 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版						○は主、△は併用
授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する							
到達目標							
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 2 歯の解剖学 :医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、解剖学的知識を修得する。 毎回、課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
合計				15			
時間外学習について							
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科臨床施設等の臨床現場で得た多くの「口腔内および頭頸部顎顔面領域」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および顎口腔系の解剖学的基礎的知識を、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。							

科目名	歯牙解剖学(実習Ⅱ)			担当教員名	野見山和貴			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年		2	単位数(時間数)	2単位(75時間)		
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版 IVY版「Tooth Carving Guide Book」									
授業の概要とねらい										
天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティーを追求した技術の修得。 歯科技工士国家試験(実地試験)の出題頻度・傾向と、全国歯科技工士教育協議会スタンダードモデルや国家試験出題基準に照らし修得する。										
到達目標										
1) 歯型彫刻(臨床的) ①全ての歯を、天然歯の特徴を再現し石膏彫刻できる ②指定された時間内に彫刻できる ③天然歯特有の特徴を説明できる ④エンジンを使用して形態再現と、天然歯表現ができる ⑤全ての部位をサンプル観察することなく時間内に彫刻できる(30min/1本) ⑥全国歯科技工士教育協議会認定試験合格(合格基準60%以上) ⑦歯科技工士国家試験(実地)合格(合格基準60%以上)										
2) 歯のデッサン ①天然歯の形態的特徴を描記できる ②全ての部位をサンプル観察することなく時間内にデッサンできる ③歯科技工士国家試験(実地)合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
(前期)										
上顎右側第一小臼歯(天然歯)					3	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版				
上顎左側第一大臼歯(天然歯)					3	IVY版「Tooth Carving Guide Book」				
デンタルショー出品作品製作					6	永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001				
上顎右側中切歯(天然歯)					3	歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28				
上顎左側犬歯(天然歯)					3	スパチュラ ラバーボウル 石膏棒ゴム陰型				
上顎左側第二小臼歯(天然歯)					3	ノギス				
上顎右側第一小臼歯(天然歯)					3					
下顎右側第一大臼歯(天然歯)					3	天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティーを追求した技術の修得。				
下顎右側第二小臼歯(天然歯)					3					
下顎左側第一大臼歯(天然歯)					3					
タイムトライアル(模擬試験形式)					6	形態再現性を向上させると共に、時間短縮を図る。				
G1GP対応					6	外部コンテスト対応				
(後期)										
上顎前歯部(上顎右側中切歯・上顎右側側切歯・上顎右側犬歯)					2	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版				
下顎前歯部(下顎右側中切歯・下顎右側側切歯・下顎右側犬歯)					2					
上顎左側第一大臼歯					1	IVY版「Tooth Carving Guide Book」				
下顎右側第一大臼歯					1	永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001				
上顎左側中切歯					1	歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28				
上顎右側犬歯					1	スパチュラ ラバーボウル 石膏棒ゴム陰型				
上顎右側第一小臼歯					1	ノギス				
上顎左側第一小臼歯					1					
上顎右側第二小臼歯					1					
下顎左側第二小臼歯					1	歯科技工士国家試験(実地試験)の出題頻度・傾向と、全国歯科技工士教育協議会スタンダードモデルや国家試験出題基準に照らし修得する。				
下顎右側第一小臼歯					1					
下顎左側第一小臼歯					1					
タイムトライアル(模擬試験形式・デッサン含む)					16	形態再現性を向上させると共に、時間短縮を図る。 全期間を通じ、反復練習を課題として課す。				
合 計					75					
時間外学習について										
教科書の事前予習を含め、実習時間の他に15時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの「口腔内の器質的形態」の知見より、歯科技工臨床で必要となる「基礎的知識」、「技術」、「手技」、および臨床応用術を教授する。臨床レベルでのスピードとクオリティを指導することで、国家試験合格に必要な技術が修得できる。										

科目名	顎口腔機能学(特講)			担当教員名	野見山 和貴			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15 時間)		
実施時期	4 月 ~	9 月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>	
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」: 医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 3 顎口腔機能学 : 医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する										
到達目標										
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」: 医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 3 顎口腔機能学 : 医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、顎口腔機能学的知識を修得する。 毎回、復習を課題として課す。				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
合 計					15					
時間外学習について										
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科診療施設等での臨床現場での補綴物製作時に得た多くの知見より、補綴修復時の下顎機能運動の基礎となる内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。										

科目名	歯科理工学(特講)			担当教員名	野見山 和貴			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15 時間)	
実施時期	4 月 ~	9 月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 1 歯科理工学:医歯薬 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版								
授業の概要とねらい									
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。									
到達目標									
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)									
授業計画									
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 1 歯科理工学:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯科理工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1					
合 計				16					
時間外学習について									
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。									
成績評価の方法及び評価割合について									
定定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									
歯科臨床で得られたの知見より、歯科材料の化学・物理的性質、組成、特性、使用法などの基礎知識や、機器の取り扱いなどに関する内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。									

科目名	有床義歯技工学(特講)			担当教員名	野見山和貴			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験				
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15時間)					
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」: 医歯薬出版、「歯科技工士国家試験問題集」: 医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策4有床義歯技工学」: 医歯薬出版												
授業の概要とねらい													
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。													
到達目標													
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本有床義歯技工学」: 医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」: 医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策4有床義歯技工学」: 医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。 毎回、復習として課題を課す。							
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
合計					15								
時間外学習について													
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。													
成績評価の方法及び評価割合について													
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
歯科臨床で得られたの知見より、臨床での有床義歯の基礎知識や製作時の歯科技工操作、製作技術を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。													

科目名	有床義歯技工学(実習Ⅱ)			担当教員名	衛藤有沙			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)	4単位(150時間)				
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」: 医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版										
授業の概要とねらい											
有床義歯補綴治療における歯科技工技術(全部床義歯・部分床義歯の制作や、義歯制作過程で使用される、個人トレー、咬合床)を習得できる。											
到達目標											
以下の事項の説明および技工操作ができる。											
1) 金属床義歯(部分床義歯)の症例検討・設計・製作 ① 症例検討 ② 症例に応じた設計 ③ 金属床義歯の制作											
2) 口蓋板装着時の口腔内変化 ① 症例検討 ② 摂食嚥下状態の変化 ③ 発音・構音の変化											
3) テレスコープ&アタッチメント義歯 ① ミリングテレスコープ支台装置の製作 ② アタッチメント(OPアンカー)の製作 ③ 流し込みレジン床											
4) ワイヤークラスプ・フレームワーク ① ワイヤークラスプ屈曲 ② 補強線屈曲 ③ 仮着・ロウ着											
5) 全国歯科技工士教育協議会認定試験対策(全部床義歯人工歯排列・歯肉形成120min/1ケース)											
授業計画											
授業項目・内容		時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
(前期)											
金属床義歯(部分床)概説		1	金属床(部分床義歯)の材料など概説を理解する								
金属床義歯(部分床)の症例検討		3	金属床(部分床義歯)の適応例を理解する								
金属床義歯(部分床)設計		1	金属床(部分床義歯)の適切な設計を理解する								
サベイング、ブロックアウト、リリース		4	サベイング、ブロックアウト、リリースなどを適切に行える								
副印象・耐火模型製作		2	副印象・耐火模型の意義と目的を理解し製作できる								
ワックスアップ		5	金属床(部分床義歯)に関わるワックスアップを行える								
スプルーイング・埋没		3	鑄造のための適切なスプルーイングと埋没を行える								
焼却・鑄造		2	機器の取り扱いを理解し、安全に焼却・鑄造が行える								
取り出し・研磨		10	審美的・機能的な金属床のための取り出し・研磨を行える								
プレゼンテーション作成		5	製作物をプレゼンテーションするための準備を行う								
症例発表		3	症例発表を正しく行える能力を養う								
口腔内印象採得・模型製作		2	模型に再現した口腔内の状態や解剖学的指標を確認する								
症例検討・観察		2	観察力を養い症例検討を行える力を高める								
口蓋板製作		3	正しい手順に従い口蓋板を製作する								
機能試験(装着感、摂食嚥下、発音・構音)		2	様々な機能試験を体験し義歯使用者への理解を深める								
検証		3	機能試験の体験を振り返り検証する								
プレゼンテーション作成		5	プレゼンテーションを行う力を高める								
症例発表		3	適切な仕方で行える症例発表を行える								
実技試験対策3回(模型製作を含む)		12	実技試験合格ための力を養成する								
(後期)											
テレスコープ・アタッチメント支台装置概説		1	テレスコープ・アタッチメントの構造や機能を理解する								
作業模型製作・咬合器装着		5	義歯製作のため適切に模型製作と咬合器装着を行う								
支台装置(舌側ミリングブレイジングアーム、OPアンカー)製作		15	先端的な支台装置への理解を深め製作を行う								
人工歯排列・歯肉形成		5	適切な手順で人工歯排列・歯肉形成を行う								
埋没(流し込み法)・流蝕・重合・研磨		8	流し込み法における埋没・流蝕・重合・研磨が行える								
ワイヤークラスプ・フレームワーク(屈曲)		15	ワイヤークラスプ・フレームワークを適切に屈曲できる								
ワイヤークラスプ・フレームワーク(ロウ着、研磨)		5	ワイヤークラスプ・フレームワークのロウ着・研磨を行える								
総義歯人工歯排列・歯肉形成(120min/1ケース)		25	総義歯人工歯排列・歯肉形成を120分で行う力を養う								
合 計		150	全期間を通じ、課題を課す。								
時間外学習について											
教科書の事前予習を含め、実習時間の他30時間の自学を要する。また、指示された課題を行いきり日までに提出し確認及び添削指導を受けること。											
成績評価の方法及び評価割合について											
定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。・提出物及び出席による総合評価。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床において有床義歯製作の難症例にも対応できる高度な製作技術手技を教授する。											

科目名	歯冠修復技工学(特講)			担当教員名	久保 慶奈			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15時間)					
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版												
授業の概要とねらい													
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。													
到達目標													
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上) を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯冠修復技工の知識を修得する。 毎回、復習内容の課題を課す。							
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1								
合 計					15								
時間外学習について													
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。													
成績評価の方法及び評価割合について													
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作の知識、クラウン・ブリッジの適応、インプラント学、CAD/CAM、に関する内容を、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。													

科目名	矯正歯科歯工学(特講)			担当教員名	久保慶奈			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(15時間)		
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯工学」:医歯薬出版、「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯工学・小児歯工学」:医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する										
到達目標										
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯工学」:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯工学・小児歯工学」:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
合計					15					
時間外学習について										
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科診療施設での実務経験から得られた知見により、矯正歯科臨床の流れや、歯科技工士の役割・製作する装置に関する基礎的な知識を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。										

科目名	小児歯科技工学(特講)			担当教員名	久保慶奈			<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年		2		単位数(時間数)		1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」: 医歯薬出版、 「歯科技工士国家試験問題集」: 医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」: 医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する										
到達目標										
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」: 医歯薬出版				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	「歯科技工士国家試験問題集」: 医歯薬出版				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」: 医歯薬出版				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1	歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化					1					
合計					15					
時間外学習について										
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、小児期における成長・発達歯科分野の基礎知識と、小児歯科臨床で用いられる咬合誘導装置の適応症例を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。										

科目名	総合歯科演習(Ⅱ)			担当教員名	産学連携企業			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	歯科技工		学科	学年		2	単位数(時間数)	3単位(90時間)			
実施時期	5月	～	6月	授業形態	講義	演習	○	実習	△	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版										
授業の概要とねらい											
<p>歯科技工士教育における臨地体験(インターンシップ)は、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とする。歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、責任感を臨床現場体験で修得する。歯科技工は実学であるため、学内教育で学んだ知識・技術を臨床の場で体験し統合することで、両者の相乗効果によってより高い学習効果を期待すると共に、先進機器を使用した歯科技工技術を体験する。歯科技工事業所を3箇所ローテーションする。</p>											
到達目標											
<p>インターンシップ事前教育</p> <p>①実習先での社会性(挨拶、礼儀、対応など)。②積極性。③歯科技工知識の統合。④CBEの実施。⑤OSCEの実施。</p> <p>インターンシップ(8:50～15:50)</p> <p>①医療ICT(演習)で得られた加工データの出力。</p>											
授業計画											
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
インターンシップ予備演習		12	<p>臨地体験(インターンシップ)で、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とし、歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、責任感を臨床現場体験で修得する。</p> <p>学内教育で学んだ知識・技術を臨床の場で体験し統合することで、両者の相乗効果によってより高い学習効果を期待すると共に、先進機器を使用した歯科技工技術を体験する。</p> <p>歯科技工事業所を3箇所ローテーションする。</p> <p>各ルーティンワークを体験する。</p> <p>実習終了後には、実習内容をレポートにまとめて提出する事。また、プレゼンテーションにまとめて発表を行うこととし、その作成は課題とする。</p>								
OSCE		5									
CBE		1									
インターンシップ1		18									
出校①		6									
インターンシップ2		18									
出校②		6									
インターンシップ3		18									
出校③(プレゼンテーション)		6									
合計		90									
時間外学習について											
教科書の事前予習を含めて自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。											
成績評価の方法及び評価割合について											
実習評価70%、レポート提出率10%及びプレゼンテーションの評価10%、出席率10%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満或未提出のレポートまたは、未発表のプレゼンテーションがあるものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
臨床現場での標準的な歯科技工作業のルーティーンを理解させ、高度先進的な歯科技工技術を学習させる。											

科目名	国家試験ゼミ			担当教員名	安部 好美			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	5単位(80時間)			
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 全教科目：医歯薬出版										
授業の概要とねらい											
国家試験ゼミにおいて、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。 国家試験模擬試験(学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会)											
到達目標											
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)											
授業計画											
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
第1回 校内模擬試験、および解説					5	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 全教科目：医歯薬出版 国家試験ゼミにおいて、国家試験模擬試験(学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会)を通し、歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)まで学力を向上させる。歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。 全期間に渡り、国家試験過去問題および模擬試験の復習を課題とする。					
第2回 校内模擬試験、および解説					5						
第3回 校内模擬試験、および解説					5						
第4回 校内模擬試験、および解説					5						
第1回 全技協 模擬試験 および解説					5						
第5回 校内模擬試験、および解説					5						
第6回 校内模擬試験、および解説					5						
第1回 医歯薬出版 模擬試験 および解説					5						
第7回 校内模擬試験、および解説					5						
第8回 校内模擬試験、および解説					5						
第2回 全技協 模擬試験 および解説					5						
第9回 校内模擬試験、および解説					5						
第10回 校内模擬試験、および解説					5						
第11回 校内模擬試験、および解説					5						
第3回 医歯薬出版 模擬試験 および解説					5						
第12回 校内模擬試験、および解説					5						
合計					80						
時間外学習について											
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に145時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。											
成績評価の方法及び評価割合について											
卒業試験・国試受験認定試験結果80%および出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。また、国試認定試験は全国歯科技工士教育協議会の合否による第三者評価。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
歯科臨床で得られたの知見より、歯科技工に関する総合的な知識を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。											